



HARRY'S 資料文献コーナー

「高校教育改革推進計画」の資料紹介と批判

平成22年3月に群馬県高校教育改革検討委員会から「群馬における今後の県立高校の在り方について」の報告を受けた群馬県教育委員会は同年12月に〔原案〕高校教育改革推進計画（以下「計画」）を発表しました。この「計画」にはどんな特徴と問題点があるのかを見ていきます。3ページからの批判検討学習会報告記事とあわせてお読みください。

I 「計画」全般の特徴と問題点

- (1) 計画の第一の柱である「1 特色ある高校教育の推進」の中でこれまでの本県の教育を主導してきた行政主体である県教委が、「この間、群馬の高校教育の何が前進し、どんな問題点が生じているか」という総括を経ないで新しい方針を出していること。
- (2) 計画の第二の柱である「II 県立高校の再編整備」の中で将来の生徒減を理由を提示せずに、40人学級を適正規模とし、1学年3学級以下の小規模校を統合（実際は統廃合）し、明確に学校を減らそうとしていること。

II 「計画」の主眼である「II 県立高校再編整備」の内容の問題点

- (1) 「1 学校の適正規模は、1学級あたり40人を標準とし、1学年あたり4～8学級とします。」の理由が何かが明示されていません。手厚い指導を求められる教育困難生徒を多く抱える小規模校にこそ対話型（双方向型）授業にふさわしい30人以下学級が求められています。一斉授業に合った40人学級になぜこだわるのか。中央中等学校が採用している30人学級を全県立高校で実施すべきです。
- (2) 「2 学校・学科等の適正配置」

「中学校卒業見込み者の推移」の観点を重視する立場から、県内を従来の4地区から8地区に細分化することによって過疎化等の進んでいる地区内の統合をしやすくしています。

(3) 「3 男女共学の推進」

「男女共学の推進」は「再編整備に併せて推進します」ではなく独自に遂行する課題です。前橋・高崎・太田地区等の伝統普通校の共学化に及び腰の姿勢からの転換が求められます。

III 各論としての「III 地区別の再編整備の方向」

- (1) 学級減・統合という手法に加え、「分校化」という手法が新たに登場したことに注目します。学級減の実現は比較的容易ですが、統合（廃校）は地域・同窓会等の対応によっては困難が伴います。統合反対の運動を封じ、緩和するための施策として「分校化」という方針が提起されたものと推察されます。

(2) 8地区の中の再編整備の方向

- ①前橋地区は既に前橋東商業が前橋商業に吸収合併されているので「学科再編等」を除いて統合の動きはないと思われま
- ②伊勢崎・佐波地区も既に境が県立伊勢崎高に吸収されているので「学科再編等」を除いて一部分校化が予想される以外の統合の動きはないと思われま
- ③高崎・安中地区は一部小規模校の統合又は分校化の推進が予想されま
- ④藤岡・多野・富岡・甘楽地区は小規模校の統合又は分校化の推進が予想されま
- ⑤沼田・利根地区は統合・分校化の推進が予想されま
- ⑥渋川・吾妻地区は分校化の推進が予想されま
- ⑦太田・館林・邑楽地区は「学科再編等」を除いて統合はないと思われま
- ⑧桐生・みどり地区は統合の推進が予想されま

高校はある意味では地域の文化センターとしての役割を持つ存在です。その地域から一つの高校が消えていくことは、地域住民にとっては極めて深刻な問題です。私たちは高校統合（統廃合）問題を教育・文化の問題としてとらえ財政問題からのみ考えてはならないと主張します。（針谷）